

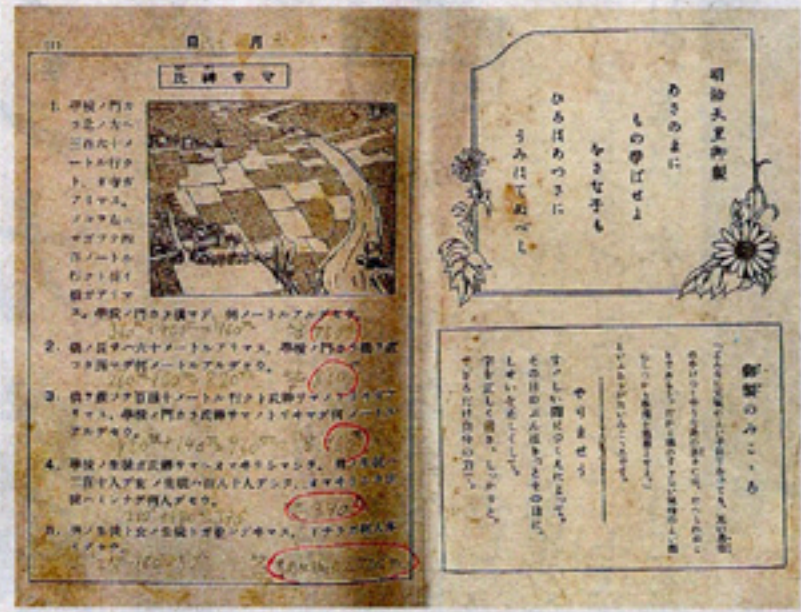
学びや

タイムスリップ

7月になりました。じめじめとした日が続きま
すが、小学生にとっては、
もうすぐ待ちに待った夏
休みですね。では、夏休
みは歴史的にいつ始ま

り、どのような変化があ
ったのでしょうか。
江戸時代には、そもそ
も今のような学校はな
く、個別指導の「寺子屋」
など私塾のような学校が
ほとんどで、そもそも夏
休みという考え方すらあ
りませんでした。今から
約150年前に明治時代
のです。1881(明治14)年
の小学校教則綱領「あさの
ま」を1枚めくると、表
紙裏には明治天皇の御製
(天皇皇族が作った和歌
など)とその説明、1年
生用「朝の間」を1枚めく
ると、表紙裏は4年生の
ものとほとんど同じです
が、1年生には「上陸下」
(昭和天皇)と「あさの
ま」(アサノマ)という別
冊と次第に天皇中心の国
家観が書かれてい
きました。1930年代にな
ると次第に天皇中心の国
家観が濃くなり、それが
戦前の夏休みの宿題とな
りました。早く起きて朝
の間に勉強をしなさい、
冬休みの宿題は戦前も
「冬休みの友」でした
(冬休みは早く起きをし
なさい)ということではあ
りません。

天皇中心の国家観 反映



「あさのま」4年(1939年、淳風尋常小学校)＝写真上右 「あさのま」4の表紙＝同上左 「朝の間」6年(1941年、淳風国民学校)＝同上

時代によって変わった
「あさのま」ですが、1937(昭和12)年に日中戦争が始まってからと学校―戦後70年をむかえて「で展示しています」(水曜休館)。

今回紹介した資料は、
今紹介した資料は、
京都府立歴史博物館(下京区)
学芸員 和崎光太郎